



富小評価だより

令和5年1月30日 No.3
富岡市立富岡小学校

令和4年度第2回の学校評価アンケートの実施に際しまして、ご協力ありがとうございました。アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。学校では、成果と課題を明確にし、課題に対しては改善策を考え取り組んでまいります。また、皆様からいただきました貴重なご意見を3学期からの学校教育に生かしてまいります。今後とも支援、ご協力をお願いいたします。

令和4年度 学校評価一覧表

【教育目標の達成状況】

観点	評価項目	評価
みんな仲良く	相手や周りのことを考えた言葉遣いができる	A
	自分から進んで挨拶や返事ができる	B
	きまりを守って生活することができる	A
	相手の気持ちが分かり、親切にできる	A
	みんなで協力することができる	A

観点	評価項目	評価
元気に運動	健康に気を付けて生活することができる	A
	進んで運動し体力を高めることができる	B
	安全に気を付けて生活できる	A
	粘り強くやり抜くことができる	B

観点	評価項目	評価
本気で勉強	将来の夢や志をもっている	A
	基礎的な知識及び技能を習得している	B
	主体的に学習に取り組むことができる	B
	知識・技能を活用し課題を解決できる	B

【本年度の努力点についての評価】

※評価の見方… A：十分に成果があった B：成果があった C：少しの成果があった D：成果がなかった

観点	評価項目	評価	成果と課題	3学期の方策
確かな学力向上	学力向上委員会を機能させ、本校の実態に応じた学力向上対策を組織的に継続する。	A	○児童の実態に基づき、運営計画の立案、組織の細分化を図ることができた。 ●全国学テの結果を学力向上委員会の取組に一層反映させることが必要。	・次年度の全国学テの問題、結果の扱いの具体的な取り組みを検討する。
	的確な実態把握を基に「個別最適な学び」「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業作りや補充学習を通して、生きて働く「知識・技能」の確実な習得を図る。	B	○授業参観でのわくスタの授業、Webページでわくスタの取組を紹介することで保護者に周知した。 ●保護者への周知が定着していないため、継続が必要。	・教員の取組の周知を継続し、CRT学力検査の結果の分析を行う。
	必要性のある課題を単元を貫いて設定し、体験的な学習や問題解決的な学習を効果的に取り入れて未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成する。	A	○児童が必要感を感じられるよう、導入部分を工夫した授業づくりに努めた。 ●ICTの活用など、協働的な学習の場についてさらに工夫する必要がある。	・協働的な学習の場について、児童の発達段階に応じて話す・聞く力を身に付けることができるよう、さらに支援していくとともに、ICTを効果的に活用するなどの工夫をしていく。
	学ぶ目的を明確にし、自ら考え、互いに高め合う児童主体の授業を通して、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養する。	A	○関東ブロック研究大会（家庭科）を中心として、学年間だけでなく、ブロック間・学校全体として学習の様子を情報交換することができた。 ●学校の取組や授業の様子が保護者に十分に伝わっていない。	・学校の取組や授業の様子をホームページを通して保護者に伝えていく。
	小中9年間の学びのつながりを踏まえ、専科教員、ALT、支援員を活用して生きた英語に触れる授業を充実し、楽しみながら英語を学んだり積極的に英語でコミュニケーションを図ったりする態度を育てる。	A	○ALTを活用したファングリッシュカフェを定期的を実施し、英語に触れる機会を充実させた。 ○高学年への英語書籍の巡回図書の実施、外国語ポスターの校内掲示など外国語に親しむ環境を整備できた。 ●小中9年間のつながりを考えた学びのための中学校との連携が取れていない。	・中学校の授業を参観したり、意見交換を行ったりして、さらなる小中連携を図っていく。
	「わくわくスタディ」「学習の約束」の共通実践を工夫・改善し、家庭でもICTを有効活用して、児童の主体性を高め、学習習慣・読書習慣・学習規律の定着を図る。	B	○各学年やクラスごとに、コンテストを実施したり、リレーノートを行ったりして、児童への意欲付けや意識付けを行うことができた。 ●保護者への周知が十分でなかった。	・わくスタコンテストの様子やリレーノートの取組などをホームページで公開したり、学年だよりや週予定などで知らせたりして保護者への公開や周知を進める。
	「キャリアパスポート」の活用を家庭と共通理解し、夢や志の実現に向け、個性を生かしながら自己成長を図るキャリア教育を推進する。	B	○各学年の実態に応じて学期の振り返りを行うことができた。 ●保護者にキャリアパスポートの活用が十分に周知されていない。	・学年通信や週予定等の中で、1年間の振り返りを保護者に周知する。

【学校全体にかかわる要望・意見に対する回答】

○保護者の方への回答

【コロナウイルス対応について】

○罹患率について

陽性児童数の公表は、学級閉鎖を行う場合など緊急性や重要性が高い場合に限り実施しています。かかりつけ医師への説明のため学年の感染状況を把握する必要がある場合は、学校（教頭）までご相談をお願いします。また、担任が罹患（濃厚接触を含む）の場合は担任不在期間が長くなるため、当該学級に限りメールで状況をお知らせしています。

○家族内でのPCR検査等の検査に昼食後の歯磨きについて

初回の検査で陰性でも、風邪症状が続き再度の検査で陽性となったケースもありました。校内での感染拡大を未然に防ぐため、家庭内で風邪症状がある場合は自宅での静養にご協力をお願いします。

○学校での感染防止対応について

感染者数が拡大している場合は、学校全体への感染拡大を防止する観点から、不特定多数の児童が集まる活動（外遊び・運動練習）は制限しております。なお、制限期間は、児童への影響を考慮し、感染状況の推移を踏まえ判断してまいります。また、教室では暖房を入れた状態で窓を開け、換気しながら授業を行っています。防寒用のひざ掛けの持参・使用は許可しておりますので、担任までお声がけをお願いします。

【行事について】

○授業参観の分散実施について

感染予防策として参観者の集中を避けるため分散で実施しております。ご不便をお掛けしますが、兄弟姉妹関係の重複をすべて配慮することには限りがありますので、ご理解ください。

○鼓笛隊について

学校行事等の在り方については、活動の教育的意義と学校の指導環境の変化とを踏まえ見直しを進めております。群馬県から示された多忙化解消に関する「提言R5」とあわせて、本校の取組をご理解ください。

○保護者への通知について

公開日の活動内容のお知らせは、必要に応じて学年ごとに工夫してまいります。また、発表等の撮影の可否については、連絡メールを活用し、丁寧に行ってまいります。

○校内絵画展について

児童の日頃の取組やその成果を効果的に伝えられるよう、公開日の掲示物を工夫してまいります。

豊かな心の育成	「言葉を大切にできる学校」として挨拶等の言語環境を整えるとともに、周囲に良い影響を与え合う望ましい人間関係を築き、互いに認め合い、高め合える学級経営を実践する。	A	○学級内において児童に寄り添った指導ができており、教員同士で連携して、児童が互いに認め合える学級づくりができた。 ○人権月間でも、言葉の使い方や敬称の呼び方（ちゃん、くん、さん）を意識づけ、言葉を大切に扱う雰囲気生まれてきた。	・教育活動全体を通じたコミュニケーション能力の育成。 ・学級や学年の様子が保護者に伝わるように、こまめに情報交換を行ったり、Webページに記事を掲載したりする。
	生徒指導の三機能（自己決定の場、自己存在感、共感的人間関係）を常に働かせ、児童のよさを多角的・多面的に捉え、「積極的な生徒指導」を実践する。	A	○それぞれの児童が活躍できる場を多く設定することで、自己有用感を持ち、主体性をもって諸活動に取り組むことができた。 ○児童の成長やよさを複数の職員で共有するとともに、支援することができた。	・より児童が主体的に活躍できる場面を設定するとともに、次の学年にスムーズに移行できるよう職員間の情報共有及び共通理解を図る。
	特別の教科「道徳」を核として「考え・議論する」道徳を充実させ、家庭や地域社会との連携を図りながら発達段階に応じた道徳性を養う。	A	○ローテーション道徳を積極的に実践することにより、道徳の授業について学年内で定期的に話し合うことができ、道徳スタンダードの定着や見直しを図ることができた。	・学校での取組や授業の様子を、通信やWebページ等で家庭・地域に発信するとともに、教員間での情報交換を図る。
	「なかよし月間」「なかよし旬間」を核に年間を通して人権教育を充実させ、人権感覚を磨き、人権尊重の精神を涵養する。	A	○人権月間を通じて児童の人権意識を高めることができた。	・各学年の実態に応じて人権教育を行っていく。
	生活支援委員会を定期的に開催し、保護者や外部機関との相互理解の下、いじめや不適応・問題行動等の早期発見・早期解決を図る。	B	○生活アンケートの内容を受け止め、学年間や生活支援委員会で情報を共有して対応を検討することができた。 ●職員と児童・保護者との関係性に課題が見られた。	・児童相互の関係は常に変化していることに目を向け、先入観を持つこと無くアンテナを高めて児童と接していく。 ・児童との関係性を深めるとともに、より保護者と連携しながら迅速に未然防止・早期発見・早期解決に努める。
	SCや心の教室相談員、SSWとの連携を深め、児童や保護者が安心して相談できる教育相談体制や支援体制を整える。	A	○教育相談主任を窓口として、SCによるカウンセリングを活用することができた。 ○SCやSSWの勤務日を調整したことで校内の生活支援委員会に参加でき、支援の方策をともに検討することができた。	・次の学年にスムーズに移行できるよう職員間の情報共有及び共通理解を図る。
健やかな体づくり	体力向上プランに基づき体育的活動を充実させ、家庭とも連携して運動習慣の定着と運動の質的・量的確保を推進する。	B	○Webページを通じて、子どもたちの様子を発信することができた。 ○体育部と連携しながら体育的活動の充実を図ることができた。 ●家庭と連携した運動習慣の定着がうまく図れなかった。	・引き続き、学校での取組や授業の様子を、通信やWebページ等で積極的に家庭・地域に発信する。 ・3学期は、学校・家庭と連携した運動習慣の定着が図れるよう、ICTを活用し家庭で運動をする環境づくりを行う。
	感染予防を核とする健康教育や栄養教諭を中心とした食育の充実により、基本的な生活習慣や望ましい食習慣の定着を図る。	A	○学校の新しい生活様式が定着し、地道な感染症対策が確実に実施できた。 ○栄養教諭による給食の時間における食育指導を計画的に実施し、望ましい食習慣の定着を図れた。	・新型コロナウイルスの第8波に入り、季節性インフルエンザの流行も懸念される中、感染症対策としての面からも基本的な生活習慣の定着を図り、感染症予防に取り組んでいく。
	実践的な安全教育により、自他の生命や健康を守る危険予測・危機回避能力を育成する。	A	○交通少年団活動（交通安全運動期間の呼びかけ）や各学級での日頃からの積極的な指導により、大きな事故なく過ごすことができた。 ○昨年度実施することができなかった引き渡し訓練を行うことができた。	・児童の防災意識を高めるために、全校で予告なしでの避難訓練など、実践的な訓練を行う。

【タブレットについて】

○自宅のプリンターとの接続

家庭のプリンタを児童の端末を接続することは制限しておりません。

○使用マニュアルについて

富小版の「手引き」については、学校のホームページにも掲載してまいります。なお、クロームブックや搭載のアプリの操作方法については、児童のICT端末からご確認ください。

○タブレットを活用した宿題や荷物について

①端末搭載のドリルソフトについては、操作性の課題点を踏まえ、家庭学習での活用を検討してまいります。

②ICT端末を含む学習用品の持ち帰りについては、持ち帰りの手段も含め各学年で改めて工夫してまいります。

【挨拶について】

日常生活での挨拶の励行を、引き続き集会や学級活動で指導してまいります。

【アンケートの内容について】

ご意見を参考に、保護者の方の声をよりの確に集約できるよう、令和5年度のアンケート項目や設問を改善してまいります。

【トイレについて】

トイレの業者清掃は市の予算で対応しているため、回数増の実現は難しい状況です。配管等の不具合については、学校予算を活用し迅速に対応しております。トイレの全面改修は、富小の施設長寿命化改修工事の中で優先的に要望してまいります。

【配付物について】

学校作成の通知等は各家庭一部を基本としております。また、メールによるお知らせを活用するとともに、ICT端末での配信も検討してまいります。

組織的で活力ある学校づくり	長期的な視点に立って本校の教育課題や地域の実態に応じた特色ある教育課程をマネジメントする。	A	○各学年で、地域の特色を生かした学習計画を立て、活動することができた。 ●より多くの地域の特色について知識を広げる必要がある。 ●長期的な視点で教育課程をマネジメントしていく意識が弱かった。	・年度始めの段階で、ある程度先を見通した学習計画を立てる。 ・現在計画されている地域の特色を生かした内容を、コロナ前とある程度同等に活動できるようにする。
	「人事評価制度」や「教員育成指標」を活用して学校経営参画意識を高め、職員一人一人が役割を自覚するとともに、創意・工夫を発揮して組織的に学校運営に取り組む。	A	○人事評価の目標と関連した一人1授業の実践を通して、各教員の授業力向上を図ることができた。 ○授業後の面談を通して、各自が取組の成果や課題を確認することができた。 ○運営委員会、生活支援委員会、学年会等による協議・伝達がしっかりと行われ、全職員の共通理解の下、組織的に学校運営に取り組むことができた。	・メンター研修等の資質向上研修と関連させ、教職員相互の情報交換を充実させる。 ・管理職による授業参観と指導、助言をより充実させる。 ・各主任を中心に、全職員が学校運営に参画している現在の状態を、維持・継続する。
	「規律確保行動計画」に則り、服務規律を遵守し、常に教育公務員としての使命感と責任感を常に自覚して職務を遂行する。	A	○県教育委員会版「服務規律の確保チェックリスト」を実施し、学校全体の結果をもとに、「服務ガイドライン」を活用した研修を計画的に行い、知識と意識を高め、服務規律の確保に努めることができた。 ○毎月、「服務規律確保チェックリスト」で振り返り、一人一人が自己点検を行うとともに、学年内で声を掛け合いながら、服務規律の確保に努めることができた。	・「服務規律チェックリスト」による毎月の確認をする。 ・県内外で発生した非違行為を職員に知らせ、本校で発生したと仮定して当事者意識を高める。
組織的で活力ある学校づくり	今秋の家庭科関プロ大会の授業公開に向けて、「はばたく群馬の指導プランⅡ」等を踏まえた校内研修を通して実践的研究を積み上げ、教員の指導力を高める。	A	○発表に向けて、他校での模擬授業や他クラスでのプレ授業を計画的に行うことができた。 ○校内研修の中で指導案作りや掲示物などの分担をし、発表に向けて準備を進めることができた。	・家庭科の授業での実践を継続する。 ・「はばたく群馬の指導プランⅡ」を活用した授業を他教科でも実践する。
	校内研修やメンター研修を通して、互いに高め合う同僚性あふれる職員集団を形成する。	A	○校内研修やメンター研修を通して、同僚性を高めることができた。	・引き続き、メンター研修等の資質向上研修と関連させ、教職員相互の情報交換を充実させる。
	特別支援Coを核として「個別の教育支援計画・指導計画」を整備・活用し、児童一人一人のニーズに応じた支援を充実する。	A	・校内研修で特別支援教育について理解を深めることができた。 ・別室登校の児童や、個別に支援が必要なクラスへの支援を行うことができた。	・2学期に引き続き、クラス内における特別支援教育を必要とする児童の担任支援や別室登校児等のサポートを行う。
	言語指導の工夫・改善に努め、通級児童の実態に応じた課題解決を図る。	A	・合同研修、教室研修、夏季研修における実践研修を通し、さらなる指導力の向上ができた。 ・個別の指導計画を活用し、個々の障害の状態に応じた指導の継続を行った。 ・タブレットを積極的に活用した授業を行った。	・年度末に向けて、改善へ向けてのまとめの指導を行う。 ・来年度に向けて新規・継続児童の把握と新年度時間割を作成する。
地域に根ざした信頼される学校づくり	東中学校やこども園等と日常的に連携し、系統性・一貫性・連続性のある指導を行う。	A	○幼保こ小連携会議を行い、次年度新入児の様子や園での学び、取組を知ることができた。 ○小中間での定期的な授業参観や校長間の情報交換を行うことができた。	・6年生や新入学児が入学後にスムーズに移行できるよう、情報交換、情報共有の場を積極的に設けていく。
	Webページや各種通信等を活用し、本校の取組を家庭・地域へ積極的に配信する。	A	○更新頻度について全体共有をして、更新ができた。	・学期始めに、更新頻度を学級・学年で揃えられるように、呼びかけをこなう。 ・Webページの定期的な更新を呼びかける。
	学校評価や学校評議員制度を活用し、保護者や地域からの情報を収集・分析することで、学校課題を把握し、年度内での改善を図る。	A	○学校評価の結果を受け、各担当ごとに課題を明確にし、全職員で改善に向けた取組を行うことができた。	・学校課題や改善に向けた取組を、家庭、地域にさらに積極的に周知し、より一層連携し改善していく。
	学校家庭地域連携推進会議を活用し、学校課題を熟議し、協働できるようにする。	A	○学校評価アンケートを活用し、家庭や地域から見た学校課題を明らかにすることができた。	・学校課題を改善していくために、さらに家庭・地域と協働していく。
	スクールサポートボランティア「とみさぼ」の取組を保護者・地域に紹介し、年間指導計画を踏まえて、外部人材を積極的に活用する。	A	○コーディネーターや担当教員との連絡を密にし、円滑な運営に努めることができた。 ○学年主任の協力により、年度当初に年間指導計画を作成できた。 ●Webページで「とみさぼ」の活動の様子を掲載したが、まだ不十分である。 ●学校・学年行事に対して自分事として考え、自主的に参加する保護者の数が減少しつつある。	・「とみさぼ」の活動の様子を今以上に発信していく。 ・年度内に、活動のおおよその計画を立てる。 ・教材室の整理や机椅子の整備など、依頼内容を広げていく。

【情報モラルについて】

児童生徒のスマホ所持は各家庭での対応ですので、利用のルール等については、まずご家庭で話し合いや指導をお願いします。なお、ICT機器の使用に伴う健康上や防犯上の課題、公共のマナー等については、発達段階に応じて、学級活動や委員会活動、道徳の時間等を活用して今後も指導してまいります。また、PTA活動として保護者の方が主体的に啓発に取り組んでいただくことも有効と考えます。

【英語教育について】

富岡市で推進しているFunGLISHを充実させるため、2名のALTを活用した授業づくりや休み時間の活動を、さらに工夫してまいります。

【通学路について】

登下校中の危険行為については、情報を把握次第、学校全体で速やかに指導を行い、重大事故の未然防止に努めております。今後も、保護者・地域の方からの声を生かし、安全を確保してまいります。

【旗振りについて】

富小校区での立哨（朝の旗振り）活動は、子育連会員の方が主体となって取り組んでいる活動です。将来を見通したシステムの整備や維持については、当事者である保護者が子どもの安全な登校をどのように支えていくのかを、皆様に議論していただくのが、第一と考えます。

【わくスタについて】

①わくスタの現状へのご意見、ありがとうございます。子どもの主体的な学びを充実させる手段である「わくスタ」の改善充実は、本校の大きな課題と考えております。子どもたちの気付きや探究心を高める教員の働きかけについて、引き続き、校内外での研修を通してスキル向上に努めてまいります。

②夏休みの作品課題（作文・作品・自由研究）の提出日については、提出後の各コンクールへの応募作品の取りまとめ・校内審査・主催団体への送付等の諸作業の時間を考慮して設定しております。2学期開始後は運動会等の指導もあり、職員の勤務時間内に審査等に十分な時間を割くことは困難な状況です。期日設定の背景のご理解をお願いいたします。

【リモート学習について】

今後も、児童の学びを止めない手立てや学びを広げる手段としてICT環境を効果的に活用してまいります。

健康で安全・安心な学校づくり	感染防止マニュアルや学校安全管理マニュアルを学校・家庭間で共通理解し、危機管理を徹底する。	A	○各教室で決められた場所にアレルギー詳細献立と食べられない物を記入した盛り付け表を保管することで、どの教員でも対応ができるようになっている。 ●教員間では感染防止マニュアルや安全管理マニュアルを周知・徹底していても、保護者には伝わっていない部分もある。	・アレルギー関係で今後統一して対応すべきことを文章化し、職員全体で共通理解し、保護者にも伝えていく。
	保護者と連携して通学路や学校施設の安全点検を徹底し、迅速に問題点を改善する。	B	○毎月校舎内外の施設設備の点検を行い、修理等改善依頼には迅速に対応した。 ○保護者・地域からの情報・要望をもとに通学路の危険箇所について確認を行った。 ●通学路の危険箇所の改修等の対応は順次進んでいるが、点検結果の周知が十分でなかった。	・通学路危険箇所の点検結果を基にして、安全マップを見直し改定する。
	適切で効果的な予算執行により、教育環境の最適化を推進する。	A	○印刷室備品の入れ替えや整備が計画的に進められた。また、水道、トイレの老朽化、経年劣化による危険箇所を改善することができた。 ●ランニングコスト等を検証し、ペーパーレス化やSDGsを意識し提案、実践していきたい。	・校舎、体育館等施設の長寿命化に合わせ、危険箇所の改善、物品の確認、廃棄を計画的に進めて教育環境を整える。
	富岡小学校施設長寿命化ワーキンググループでの取組を通して、将来にわたって安心して快適な学校施設の在り方について検討する。	A	○夏休みや冬休みを利用したり、日頃の清掃時間や放課後、単元の学習後に、教室や教材室の整理整頓ができた。 ●日頃の業務が多くなると整理整頓に対する優先順位が低くなってしまい、教室や教材室以外の場所まで整理整頓ができなかった。また、何を、いつ片付けるか等、校務員やSSSと打ち合わせるができなかった。	・具体的な期日や期限、誰がどこをするか等の見通しを提示したり、SSSへの業務依頼を促したりして、備品廃棄に対する心理的な負担を減らす。
働き方向上	分掌業務の見直し・改善を通して働き方改革を着実に進め、さらなる校務の効率化・スタンダード化を図り、持続可能なシステムづくりを継続する。	A	○加重負担緩和へ向けて、声かけや連携強化を推進する雰囲気が出た。 ○課題に複数で対応する体制づくりが進められてた。 ●教員が児童と向き合い、児童の課題を共有する時間を確保、充実させていくことが課題としてあげられる。そのため、仕事量の適正化、総量規制、電話対応の効率化等を全員で考えていく必要がある。	・仕事量の適正化、総量規制に向けて、行事や会議の持ち方等を全員で見直していきたい。効率化や統合、外部組織等を活用できる業務はないかなどを検討していく。
	勤務時間の適正な管理や実態把握により、職員のワークライフバランス（ベスト・エデュケーション/ベスト・コンディション）やメンタルヘルスの保持に努める。	A	○定時退勤日や週休日の勤務解消などライフワークバランス確保に努めようとしている。 ●二学期の時間外勤務時間が45時間超の教員割合は47%である。各月の超過教員割合が昨年度より増加傾向している。 ●月の退庁時間平均が19時を下回ることができなかった。時間枠を意識した働き方を各自が工夫することを全校的に啓発する必要がある。	・関プロ大会終了を機に、7to7（7時登庁・7時退庁）を意識した働き方への修正を組織的に啓発していく。 ・学校行事の内容や形態がコロナ以前に戻らないよう、精選やスリム化を工夫していく。

○地域の方への回答

【不登校対応】

個別の配慮を要する児童に対しては、保護者の方との共通理解を図り、学校全体で対応してまいります。

【挨拶について】

地域の中で、子どもたちから進んで挨拶ができるよう、全校集会や学級活動を通して、呼びかけてまいります。また、職員自ら手本を示してまいります。

【危機管理について】

令和5年度の評価項目に、避難訓練や防災の方策も取り入れるようにします。

【アンケートについて】

地域の実状も踏まえ、アンケート項目を改善してまいります。回答は、お答えいただける範囲で構いません。